



円融天皇火葬塚



朱山七陵への道標



円融寺の遺構とされる龍安寺の鏡容池

く、円融寺は円融、円教寺は一条、円乗寺は後朱雀、円宗寺は後三条のそれぞれ勅願により創建されたもので、いずれも立派な伽藍を備え、威容を誇っていたといわれる。だから、これらの天皇と関係する皇族の墓所が、四円寺を見下ろせる朱山に集中してつくられたのだ

ろうというわけだ。

実際、御陵の名は一条が円融寺北陵、後朱雀が円乗寺陵、後冷泉が円教寺陵、後三条が円宗寺陵、堀河は後円教寺陵となっている。

さて、一条と彰子の間には、長男の後一条がいるが、後一条は男子に恵まれず、次男の後朱雀が皇統を継いでいく。後朱雀には道長の六女・嬉子との間に後冷泉が生まれるものの、嬉子は産後の肥立ちが悪く出産2日目に死去、継室となった三条天皇の第三皇女・禎子（母は道長の次女・妍子）との間に後三条が生まれる。後冷泉には後一条同様男子が生まれなかったため、弟（後三条）が跡を継いだのである。

禎子を母に持つ後三条は、宇多天皇以来、実に170年ぶりに藤原氏を外戚（外祖父）としない天皇であった。この結果、さしもの藤原氏の繁栄にも陰りが見え始める。そして、退位した天皇が上皇・法皇として、後継の天皇に代わって政治を行う「院政」が始まるのだ。後三条の子・白河の時、院政

京を歩けば 381

鳥越 一朗

歴史の足跡を訪ねて（1）

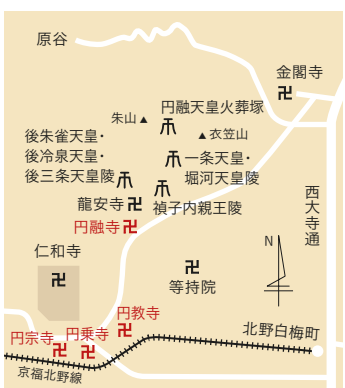
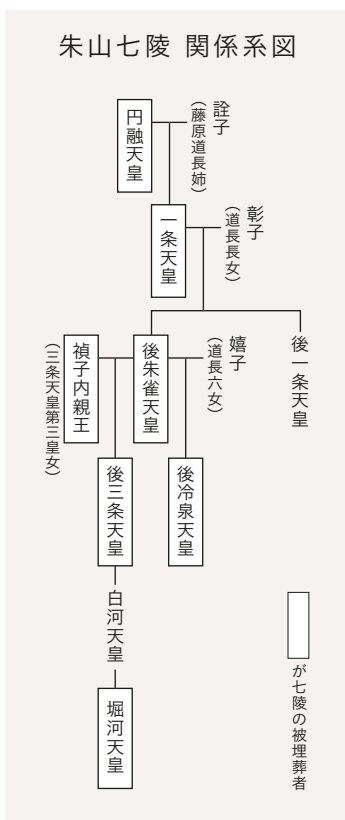
朱山七陵と四円寺

京都には天皇陵が多い。千年の都なのだから当然といえば当然だが、龍安寺の北側の朱山には特に多く、朱山七陵と呼ばれている。朱山の山頂から麓へ、円融（火葬塚）・一条・堀河・後朱雀・後冷泉・後三条の各天皇と禎子内親王の7人の陵墓が連なって設けられているのだ。

これらの皇族の名を見て、その関連性にはたと気付かれた方は、『源氏物語』の作者・紫式部とその時代に相当関心がおありの「紫式部推し」かもしれない。というのも、紫式部が女房として仕えた藤原彰子（藤原道長の長女）は、一条の皇后であり、円融は一条の

父、後朱雀は一条と彰子の次男、後冷泉と後三条は後朱雀の子、禎子は後朱雀の皇后で後三条の母、堀河は後三条の孫なのである。

それにしても、なぜこれらの天皇の陵墓がここに固まっただけなのか。子どもの頃、この辺りは私の遊び場だったが、その理由を何かなので私が知ったのは成人してからである。平安時代も折り返し点に差しかかった西暦1000年前後、平安京北西の御室から衣笠山西麓にかけて、円融寺、円教寺、円乗寺、円宗寺という四つの寺院があった。四つとも円（の）字が付くことから「四円寺」と総称される。四円寺は歴代天皇との関係が深



※四円寺の位置は推定

な龍安寺は、室町時代に円融寺の跡地に建てられたといわれ、境内にある鏡容池は、円融寺の遺構とされる。朱山や衣笠山の山影を文字通り鏡のごとく水面に映す鏡容池——その佳景を眺めながら、『源氏物語』の時代に思いを馳せるのも一興ではないだろうか。

〈とりこえ いちろう〉作家。京都府京都市生まれ。京都府立嵯峨野高校を経て京都大学農学部卒業。主に京都や歴史を題材にした小説、エッセイ、紀行などを手がける。『明智光秀劇場百一場』『1964東京オリンピックを盛り上げた101人』『おもしろ文明開化百一話』『電車告知人』『京都大正ロマン館』『麗しの愛宕山鉄道鋼索線』『平安京のメリークリスマス』など著書多数。近著に、紫式部の生涯やゆかりの地、源氏物語54帖のあらすじなどを紹介する『紫式部と源氏物語 京都平安地図本』がある。